

Together

知識 [Knowledge] と行動 [Behavior] で問題解決 [Solution] を支援

KBS は「HANDS ON 型」で、観光・サービス業界を支援します。http://www.kbsbiz.com E-Mail : info@kbsbiz.com

7月23日は二十四節気の「大暑」。1年で最も暑い時期とされています。夏旅行の申し込みは、この「大暑」を目途に峠を越え、お盆を過ぎれば秋商戦が始まります。お盆までは多くの観光施設でお客様の受け入れがピークに達しますが、その先にある秋商戦の準備までをこの「大暑」までに済ませておきたいですね。

常務執行役員 コンサルティング事業部長 谷口純平

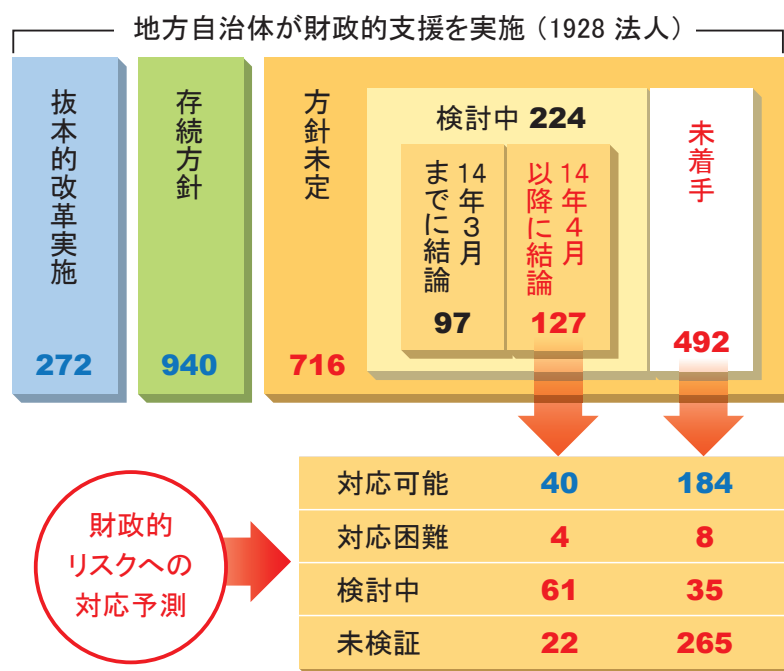


赤字経営からの脱却を目指して 「第三セクターや指定管理事業者の経営診断とモニタリング」

1995年の合併特例法に始まり、2005年～2006年にかけてピークを迎えたとされるいわゆる「平成の大合併」では、合併特例債に代表される財政支援策等によって、市町村の数が約半分に減りました。この平成の大合併のピークから約10年が経過し、各自治体の財政状況も変化中、合併前の市町村が地域振興や健康増進等の目的で建設・運営を行ってきた第三セクターの宿泊・温浴・物販・レストランに代表される観光施設の経営について見直す動きが始まっています。読売新聞によると、財政難に陥っている第3セクターや地方公社1928法人のうち、37%にあたる716法人については、改革方針が未定となっており、そのうちの55%にあたる395法人については、財政的リスクへの対応予測が明確になっていません。このような背景の中、KBS創研においても、第三セクターや指定管理事業者の経営について、慢性的な赤字の脱却へ向け、その経営診断とアクションプランの策定、またその後のモニタリングにおける現場指導のご依頼やご相談が増加しております。

今月のTogetherでは、赤字経営からの脱却を目指すためにKBS創研が実施している経営診断についてご紹介させていただきます。

3セク・地方公社などの改革取り組み状況



■第三セクターの改革には伸びしろが多い！改革への強い意志を自治体を示すことが成功のポイント

当社のこれまでの経験から、第三セクターには、主に右表のような傾向に陥ることが多いように感じられます。どれも基本的なことが多いものの、逆に言えば、本腰を入れて、適切な手順で取り組みへの改善を進めれば、経営改革が実現する伸びしろが十分にあるとも言えます。また経営状態について、自治体の危機感の高さに比べると、運営事業者には危機感が薄いことが多いようです。そのため、経営改革を推進するに当たっては、自治体サイドが先導して、改革への強い意志を示すことが成功の近道であると思います。

	項目	内容
内部統制	計数の整備ができていない	説明責任を果たすためにも計数の整備はなされている →事業運営のために活用されていない
	成り行き管理になっている	計数は整備されているが、目標設計や従業員の業務管理が疎かになっている →従業員個々人が思い思いに仕事をしている
営業活動	経費削減が得意	経費削減への意識は高いが、行き過ぎることが多い →商売には必ず必要な経費がある
	営業活動がなされていない	売上を向上させるための取り組みがほとんどなされていない
従業員	従業員の責任感が希薄	目の前の業務は着実に遂行できるが、全体を見渡して果たすべき役割を果たそうという責任感がみられない
	探究心がない	キャリア形成をしていこうという気持ちを感じられない
	できない理由を考える	余計なことはやりたくない

KBS 創研が実施する経営診断およびアクションプランの策定は、資金繰りに窮した民間企業が金融機関との返済スケジュールの見直し（いわゆる「リスケ」）を含めた事業再生を実施する際に必要とされる事業デューデリジェンスと事業計画書の策定を基本としたものです。したがって、市長様や議会様へのご報告にもご活用いただける内容となっております。

4. モニタリング

集 編
記 後